



**JFE**

**JFEホールディングス株式会社**

2024年3月期 第2四半期 決算説明会（インベスターズ・ミーティング）

2023年11月6日

## 登壇

---

**司会：**これより JFE ホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。

本日の出席者は、代表取締役副社長、寺畑雅史、専務執行役員、田中利弘です。時間は、プレゼンテーション約 30 分、質疑約 30 分の、計 60 分を予定しております。質疑応答は、説明終了後、一括して行います。

それでは、本日発表いたしました決算および業績見通しにつきまして、まずは代表取締役副社長、寺畑より業績の概要をご説明いたします。



<b>2023年度 上期決算</b>	<b>事業利益 1,643億円</b> <small>(対前回公表+393億円、対前年同期▲236億円)</small> <small>※棚卸資産 評価差等除き</small> <b>1,653億円</b> <small>(対前回公表+243億円、対前年同期+934億円)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対前回公表：販売価格改善等の取り組みにより<b>393億円の増益</b>で着地。</li> <li>対前年同期：棚卸資産評価差益の剥落により減益(▲236億円)も、<b>評価差等除きでは934億円の大幅増益</b>。</li> </ul>
<b>2023年度 見通し</b>	<b>事業利益 2,900億円</b> (前回見通しどおり) <small>※棚卸資産 評価差等除き</small> <b>2,900億円</b> (対前回公表▲250億円) <hr/> <small>棚卸資産評価差等除き 鉄鋼事業トン当たり利益</small> ： <b>10千円/t</b> <small>(前回見通しどおり)</small> <hr/> <b>単独粗鋼生産量：2,380万t程度</b> <small>(対前回公表▲80万t)</small> <hr/> <b>年間配当100円</b> (中間50円)	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>事業利益は前回見通しどおり。</b></li> <li>海外鋼材市況回復の遅れ、原料炭価格急騰および粗鋼生産量減により、<b>評価差等除きでは対前回公表250億円減益</b>の見通し。</li> <li><b>中間配当50円</b>を取締役会で決議。 (前回公表通り) 年間配当は前回公表通り。</li> </ul>
<b>トピックス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京浜地区上工程休止および土地活用について</li> <li>・JGreeX™の採用拡大について</li> <li>・公募増資およびCB発行による資金調達について</li> </ul>	

寺畑：業績のハイライトをご説明させていただきます。

まず、上期の業績についてです。事業利益は1,643億円でした。前年同期と比べると、前年度は棚卸資産評価益があり、今年度はその剥落により236億円の減益となりましたが、評価差等除きでは934億円の増益となりました。また、前回の公表と比べても、販売価格改善などの取り組みにより、393億円の増益となりました。

次に、23年度の見通しについてです。事業利益は前回見通し通りの2,900億円となります。一方、足元の事業環境は非常に厳しく、海外の鋼材市況回復の遅れや原料炭価格の急騰などを受け、粗鋼生産量の見通しを2,460万トンから2,380万トンに見直し、また、棚卸資産評価差等除きの事業利益は前回公表に対し250億円の減益の見通しです。ただし、評価差等除きのトン当たり利益は1万円を維持する予定です。

配当については、本日の取締役会で中間配当50円を決議しました。年間配当については、前回の公表通り100円とする予定です。

説明の最後に、トピックを3点ご説明いたします。以上です。



- ▶ **当期上期事業利益は1,643億円**(対前回公表+393億円、対前年同期▲236億円)  
 \* 棚卸資産評価差等除きでは対前回公表+243億円、対前年同期+934億円

(億円)	2022年度 上期実績	2023年度 上期見通し (前回)	2023年度 上期実績	増減 (対前年同期)	増減 (対前回公表)
売上収益	25,643	26,100	<b>25,765</b>	122	▲335
<b>事業利益</b> [棚卸資産評価差等除き]	<b>1,879</b> [719]	<b>1,250</b> [1,410]	<b>1,643</b> [1,653]	<b>▲236</b> [934]	<b>393</b> [243]
金融損益	▲66	▲100	▲89	▲23	11
セグメント利益	1,812	1,150	<b>1,553</b>	▲259	403
個別開示項目	-	-	-	0	0
税引前利益	1,812	1,150	<b>1,553</b>	▲259	403
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲579	▲300	▲452	127	▲152
<b>当期利益</b>	<b>1,232</b>	<b>850</b>	<b>1,100</b>	<b>▲132</b>	<b>250</b>

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの  
 セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの  
 事業利益(棚卸資産評価差等除き)：連結事業利益から、鉄鋼事業の棚卸資産評価差等を除いたもの

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

5

田中：それでは、続いて私から、まず上期決算についてご説明します。

売上収益は2兆5,765億円、事業利益は1,643億円、当期利益は1,100億円という実績となりました。前年同期と比較すると、事業利益で236億円の減益となりましたが、8月の前回公表と比較すると、事業利益で393億円、当期利益で250億円の増益となりました。棚卸資産評価差等除きでは、事業利益は、前年同期と比較して934億円、前回公表と比較しても243億円の増益となりました。



# 2023年度上期決算 セグメント別

(億円)	2022年度 上期実績	2023年度 上期見通し (前回)	2023年度 上期実績	増減 (対前年同期)	増減 (対前回公表)
鉄鋼事業	19,189	18,800	<b>18,658</b>	▲531	▲142
エンジニアリング事業	2,190	2,300	<b>2,484</b>	294	184
商社事業	7,502	7,800	<b>7,420</b>	▲82	▲380
調整額	▲3,239	▲2,800	▲2,797	442	3
<b>売上収益</b>	<b>25,643</b>	<b>26,100</b>	<b>25,765</b>	<b>122</b>	<b>▲335</b>
事業利益(A)	1,879	1,250	1,643	▲236	393
金融損益(B)	▲66	▲100	▲89	▲23	11
鉄鋼事業	1,482	870	<b>1,228</b>	▲254	358
エンジニアリング事業	▲39	50	<b>87</b>	126	37
商社事業	406	260	<b>268</b>	▲138	8
調整額	▲36	▲30	▲31	5	▲1
<b>セグメント利益(A+B)</b>	<b>1,812</b>	<b>1,150</b>	<b>1,553</b>	<b>▲259</b>	<b>403</b>

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの  
 セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

こちらにセグメント別の詳細を示します。セグメント利益は鉄鋼事業が1,228億円、エンジニアリング事業が87億円、商社事業が268億円で、合計で1,553億円となりました。前回見通しとの比較では、鉄鋼事業が358億円、エンジニアリング事業が37億円、商社事業が8億円の増益となり、合計で約400億円の増益となりました。



# 2023年度上期決算 対前回見通し

JFEスチール

## セグメント利益 +358億円内訳

単位	2023年度 上期見通し	2023年度 上期実績	(億円)				
			JFEスチール	2023年度 上期見通し	2023年度 上期実績	増減 対見通し	
単独 粗鋼生産量	万t	1,230程度	1,216				
単独 出荷量	万t	-	1,065	セグメント 利益	870	1,228	358
鋼材 平均価格	千円/t	128程度	129.3	棚卸資産評 価差等除き	1,030	1,238	208
為替レート	円/ドル	139程度	139.9				

<b>1. コスト</b>	<b>+50</b>	・ 操業改善
<b>2. 数量・構成</b>	<b>▲30</b>	・ 粗鋼1,230万 t 程度→1,216万 t
<b>3. 販価・原料</b>	<b>+120</b>	・ 販売価格改善活動 継続によりスプレッド改善
<b>4. 棚卸資産評価差等</b>	<b>+150</b>	・ 棚卸資産評価差 +40 (▲30→+10) ・ キャリーオーバー影響 +20 (▲190→▲170) ・ 為替換算差 +90 (+60→+150)
<b>5. その他</b>	<b>+68</b>	・ Gr会社+60 他

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

7

鉄鋼事業の上期決算については、前回見通しと比較して358億円の増益となりましたが、その内訳を説明します。左上の粗鋼生産量は、前回見通しの1,230万トン程度に対し、実績は1,216万トンで、10万トン強の減産となっています。この減産のためマイナス30億円となりましたが、コストについては50億円上乗せでプラスとなり、販売価格の改善によるスプレッドの改善で120億円増益となりました。また、棚卸資産評価差等のところは、前回、為替を期末140円程度と見ていたのが、149円台という実績になったため、為替の換算差が大きく影響しました。加えてグループ会社の増益もあり、合計で358億円の増益となりました。



2022年度上期⇒2023年度上期

JFEスチール

セグメント利益 ▲254億円内訳

	単位	2022年度 上期	2023年度 上期
単独 粗鋼生産量	万t	1,264	1,216
単独 出荷量	万t	1,086	1,065
鋼材 平均価格	千円/t	131.6	129.3
為替レート	円/ドル	131.6	139.9

	2022年度 上期		2023年度 上期		増減 対前年同期
JFEスチール					
セグメント 利益	1,482		1,228		▲254
棚卸資産評 価差等除き	322		1,238		916

1. コスト	+150	・ 操業改善
2. 数量・構成	▲100	・ 粗鋼1,264万t→1,216万t
3. 販価・原料	+1,440	・ 販売価格改善活動 継続によりスプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	▲1,170	・ 棚卸資産評価差▲810 (+820→+10) ・ キャリーオーバー影響▲220 (+50→▲170) ・ 為替換算差▲140 (+290→+150)
5. その他	▲574	・ Gr会社▲80 ・ 為替フロー差▲110 ・ 減価償却費▲100

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

8

次に、前年同期との比較です。

前年同期と比較し 254 億円の減益で、粗鋼については、前年 1,264 万トンに対して 1,216 万トンと、48 万トンの減産となりました。損益の増減の内訳については、粗鋼減に伴い 100 億円のマイナスとなっていますが、一方で、コストについては 150 億円のプラスとなっております。また、販価・原料については、原料炭を中心に、大幅に原料コストが下がったこと、および国内価格については改善活動を継続したことにより、1,440 億円という大きなスプレッドの改善ができました。ただし、棚卸資産評価差等のところは、前年は棚卸資産評価差、あるいは為替換算差も前年上期に大きくプラスでしたが、これらの益が前年対比で減ったことにより、1,170 億円のマイナスとなっています。加えて、その他のところのグループ会社、為替フロー差あるいは減価償却費等のマイナスもありますが、棚卸資産評価差等除きで見ると、前年対比では 916 億円の大幅増益となりました。



# 2023年度 業績見通し

JFE

▶ 年間見通しは、**事業利益2,900億円**(前回見通しどおり、対前年度+542億円)、  
**当期利益1,900億円**(前回見通しどおり、対前年度+274億円)を見込む。

(億円)	2022年度 実績		2023年度 見通し(前回)	2023年度 見通し(今回)		増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
	上期	年間	年間	上期	年間	年間	年間
売上収益	25,643	52,687	53,800	25,765	<b>53,600</b>	913	▲200
<b>事業利益</b> [棚卸資産評価差等除き]	<b>1,879</b> [719]	<b>2,358</b> [1,628]	<b>2,900</b> [3,150]	<b>1,643</b> [1,653]	<b>2,900</b> [2,900]	<b>542</b> [1,272]	<b>0</b> [▲250]
金融損益	▲66	▲148	▲200	▲89	▲200	▲52	0
セグメント利益	1,812	2,210	2,700	1,553	<b>2,700</b>	490	0
個別開示項目	–	▲107	–	–	–	107	0
税引前利益	1,812	2,102	2,700	1,553	<b>2,700</b>	598	0
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲579	▲476	▲800	▲452	▲800	▲324	0
<b>当期利益</b>	<b>1,232</b>	<b>1,626</b>	<b>1,900</b>	<b>1,100</b>	<b>1,900</b>	<b>274</b>	<b>0</b>

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの  
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの  
事業利益(棚卸資産評価差等除き)：連結事業利益から、鉄鋼事業の棚卸資産評価差等を除いたもの

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 10

次に、23年度の年間の業績見通しについてです。事業利益、当期利益ともに前回の見通しと変わっておらず、年間の事業利益は2,900億円、当期利益は1,900億円と見通しています。



# 2023年度 業績見通し セグメント別

JFE

(億円)	2022年度 実績		2023年度 見通し(前回)	2023年度 見通し(今回)		増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
	上期	年間	年間	上期	年間	年間	年間
鉄鋼事業	19,189	38,811	37,700	18,658	<b>38,000</b>	▲811	300
エンジニアリング事業	2,190	5,125	5,500	2,484	<b>5,500</b>	375	0
商社事業	7,502	15,141	16,200	7,420	<b>15,800</b>	659	▲400
調整額	▲3,239	▲6,389	▲5,600	▲2,797	▲5,700	689	▲100
<b>売上収益</b>	<b>25,643</b>	<b>52,687</b>	<b>53,800</b>	<b>25,765</b>	<b>53,600</b>	<b>913</b>	<b>▲200</b>
事業利益(A)	1,879	2,358	2,900	1,643	2,900	542	0
金融損益(B)	▲66	▲148	▲200	▲89	▲200	▲52	0
鉄鋼事業	1,482	1,468	2,000	1,228	<b>2,000</b>	532	0
エンジニアリング事業	▲39	134	250	87	<b>250</b>	116	0
商社事業	406	651	480	268	<b>480</b>	▲171	0
調整額	▲36	▲43	▲30	▲31	▲30	13	0
<b>セグメント利益(A+B)</b>	<b>1,812</b>	<b>2,210</b>	<b>2,700</b>	<b>1,553</b>	<b>2,700</b>	<b>490</b>	<b>0</b>

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの  
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 11

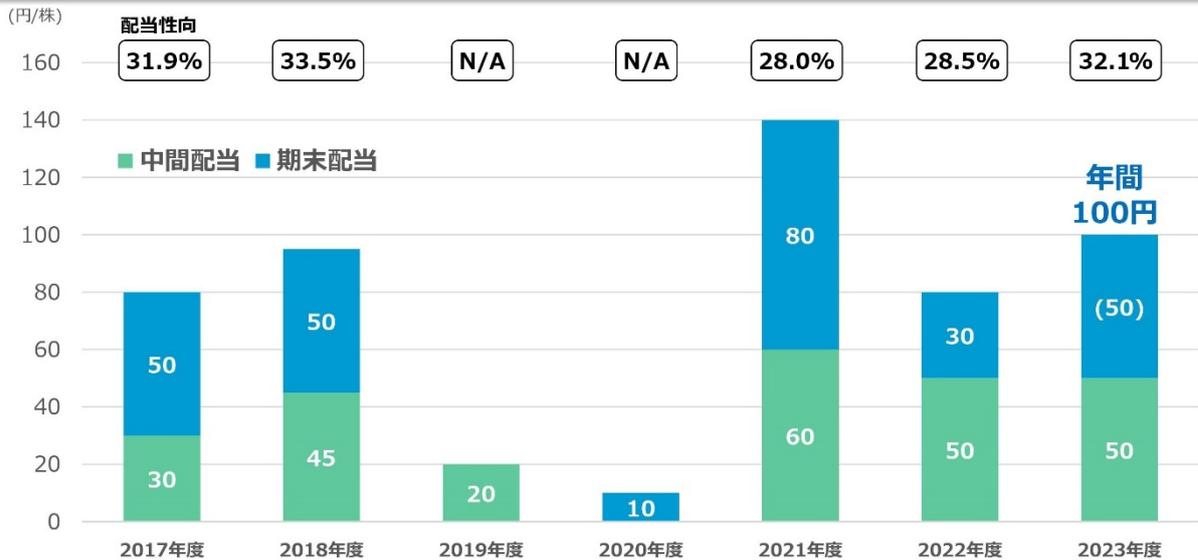
また、セグメント別に見ても、鉄鋼事業 2,000 億円、エンジニアリング事業 250 億円、商社事業 480 億円と、8月の発表から変化はありません。



## 配当について

JFE

- 当期の中間配当については、**1株当たり50円**を支払うことを取締役会において決議いたしました。（前回公表通り）
- 年間配当については、業績見通しおよび配当性向30%程度の方針を踏まえ、**1株当たり100円の見通し**。（前回公表通り）



Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 12

配当についてです。中間配当については、本日の取締役会において50円と決議をいたしました。年間配当も、1株当たり100円という見通しで、前回見通しから変更ありません。



## 足元の事業環境認識（国内鋼材需要）

JFE

- 自動車分野の活動水準は改善に向かっているものの、**土木建築分野中心に人手不足や資材高騰の影響により、需要の先送りが継続。**
- 上期から下期にかけて、**鋼材需要は横ばいを見込む。**

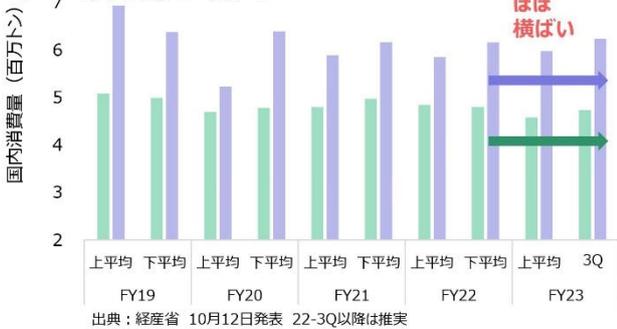
【自動車生産台数見通し】単位：万台/Q



【分野別動向】

自動車	<ul style="list-style-type: none"> <li>各社受注残を抱えており、生産意欲は高い。</li> <li>半導体供給リスクは徐々に改善しており、生産水準は緩やかに回復する見込み。</li> </ul>
造船	<ul style="list-style-type: none"> <li>資材高騰や人手不足の影響はあるものの、安定仕事量の目安の2年分の受注残を確保。</li> <li>今後2～3年は足元の水準が安定的に継続する見通し。</li> </ul>
その他製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械は、資源高によるマイニング需要は強く、引き続き堅調も、建築・土木向けの外需減も見え始め、動向を注視。</li> <li>産業機械は、金利上昇など、経済の先行き不透明感から投資の慎重姿勢も強まりつつあり、注視必要。</li> </ul>
建築	<ul style="list-style-type: none"> <li>非住宅分野は、比較的堅調であった大型案件でも資材高騰や人手不足により需要先送りの動き。</li> <li>新設住宅着工は伸び悩み、中小案件の低調も継続。</li> </ul>
土木	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き高水準の予算措置がなされているものの、資材等コストの上昇や人手不足等の影響を受ける見込み。</li> </ul>

【国内普通鋼 鋼材消費見通し（四半期ベース）】



出典：経産省 10月12日発表 22-3Q以降は推定

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

14

それでは、具体的に事業セグメント別の状況についてご説明します。まず、鉄鋼事業における事業環境についてです。国内については、自動車分野の活動水準が改善に向かっており、前回と比較しても、回復傾向がさらに進んでいます。一方で、土木建築分野を中心に人手不足や資材高騰の影響によって、需要の先送りが引き続き続いています。

総じて言えば、上期から下期にかけての鋼材需要は横ばいとしています。右に分野別動向を示していますが、自動車については、生産水準が緩やかに回復し、前回と比較してもプラス方向です。造船については大きな変化はありません。製造業の中でも建設機械については、マイニングの需要は引き続き堅調ですが、建築・土木分野での外需の減少が見られ、動向が少し弱い方向に向かっています。

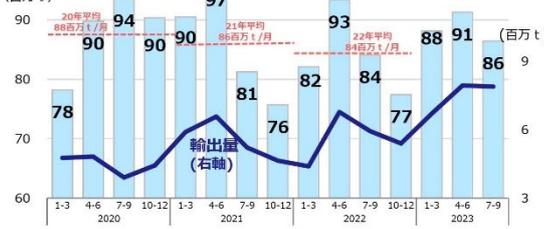
産業機械についても、前回少し触れたように、投資の慎重姿勢が強まっており、少し弱い傾向が見られます。また、建築については、これまで比較的堅調だった大型案件でも、資材高騰や人手不足により需要先送りの動きが明らかになっています。中小案件については引き続き低調です。

総じて言えば、自動車が若干プラスですが、建築・建設分野で少しマイナスで、全体としては内需は前回とあまり大きく変わらないという見方です。



- 中国では不動産分野の不調による内需低迷のため、鋼材輸出量が増加し、**海外鋼材需給の緩み、市況停滞が継続。**
- 中国政府による景気刺激策と粗鋼抑制の期待もあるが、本格的な鋼材需要・市況の回復には時間を要する見込み。

**【中国 粗鋼生産・鋼材輸出量】** 年間粗鋼量(月当り)  
 2020年:1,053百万t(88)  
 2021年:1,033百万t(86)  
 2022年:1,013百万t(84)



**【2023年暦年実質GDP成長率見通し】**  
 (矢印は前回見通しからの変動)

	世界平均	米国	中国	インド	ASEAN-5
参考:2022年推計	3.5%	2.1%	3.0%	7.2%	4.5%
23/7見通し	3.0%	1.8%	5.2%	6.1%	5.3%
23/10見通し	3.0%	2.1%	5.0%	6.3%	5.2%

出典：IMF World Economic Outlook Update 23/7/25公表・23/10/10公表

\*ASEANS : タイ・フィリピン・インドネシア・マレーシア・シンガポール

**【分野別動向】**

薄板	・中国では、不動産分野不振の回復遅れにより内需低迷。 ・東南アジアでは、中国からの輸入材増加に加え、外需の減退や資源価格下落の影響もあり、鋼材市況停滞が継続。
自動車	・需要は底堅く、生産水準は段階的な回復を見込む。 ・但し、ウクライナ危機の長期化、物価上昇や米国を中心とした利上げ影響、中国の成長ペース鈍化もあり、前年比で緩やかな回復になる見込み。
造船	・中韓造船会社は、新造受注を伸ばし安定した契約残を確保。 ・人手不足の影響はあるものの、徐々に解消の動きもみられ、堅調な見通し。
エネルギー	・油価・ガス価は、経済減速懸念により一時下落も、石油、天然ガス産出プラント開発案件の投資は堅調を見込む。



次に海外の鋼材需要についてご説明します。ご存知の通り、中国での不動産分野の不調により内需が低迷し、輸出が増えているため、海外の鋼材需給が非常に緩んでおり、市況の低迷が続いています。中国政府による景気刺激策や粗鋼抑制などの期待もありますが、本格的な鋼材需要市況の回復には時間がかかると見えています。前回までは、年明けぐらいには回復すると申し上げていましたが、今回の見立てとしては今年度中に回復するのは難しいと見えています。

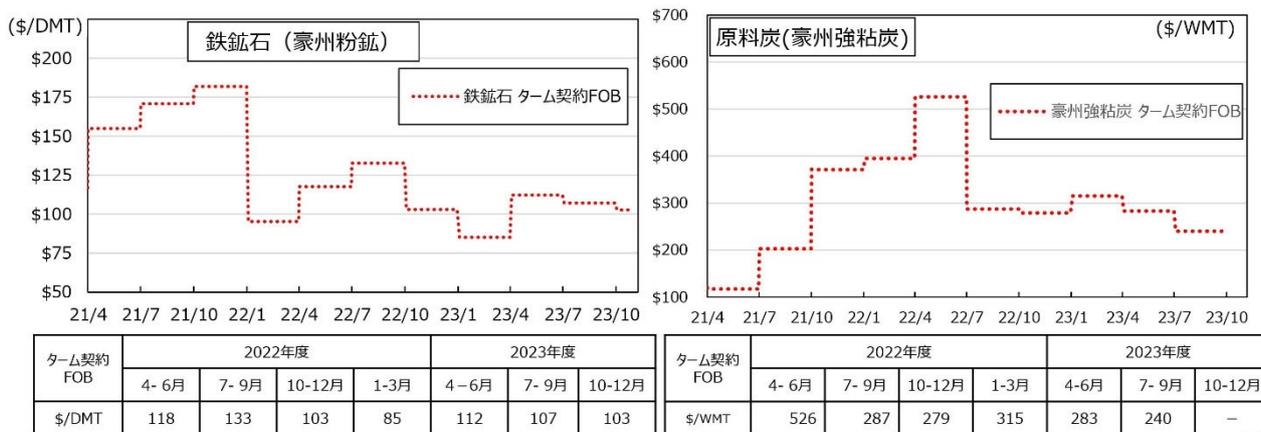
左下に中国の鋼材市況、熱延価格を示していますが、これらも非常に低い水準で推移していることがわかります。右側には分野別の動向を示していますが、薄板の東南アジアに関しては、前回までは緩やかに回復するという見通しでしたが、今回は中国からの輸入材の増加や外需の減速、資源価格の下落などの影響により、鋼材市況の停滞が継続しており、回復が見られないという見方に変えています。その他の分野については、前回の見立てと大きく変わっていません。

■ 主原料

- 鉄鉱石は、中国鋼材市況が低迷する中、足元はFOB100ドル近辺で推移。
- 原料炭は、9月以降はインドの需要増加等に伴い急騰し、FOB300ドルを超えて推移。
- 鉄鉱石、原料炭ともに、今後も足元レベルの価格水準が継続と想定。(天候影響は要注視)

■ 金属

- 欧州経済の低迷、中国の景気・鉄鋼需要回復の遅れにより、金属市況は弱含みで推移。



Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

次に原料です。

下の表に鉄鉱石と原料炭の価格推移を示しています。鉄鉱石については、中国の鋼材市況が低迷している中でも、足元は FOB で 105 ドルから 115 ドルといった水準で推移しています。一方、原料炭については、9 月以降、特にインドの需要増加などにより急騰しており、現在は FOB で 300 ドルを大きく超えたところで推移しています。当社は、今後も鉄鉱石と原料炭の価格が足元レベルの水準で推移すると想定しています。



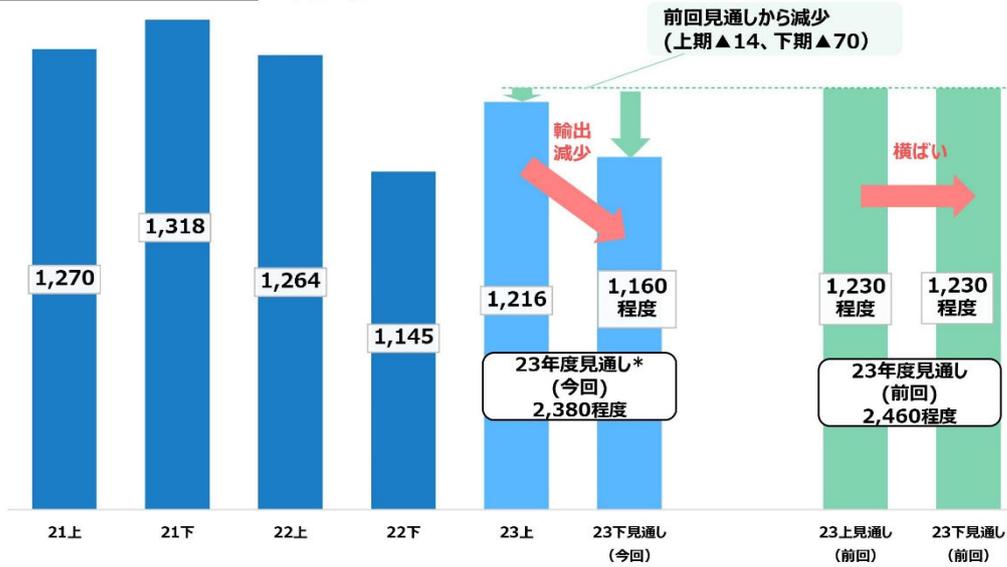
# 粗鋼生産量について

JFE

➤ 原料炭市況が急騰する中、海外鋼材需要・市況の回復が前回想定よりも遅れており、主に輸出向けで数量減を織り込み、**単独粗鋼生産量は年間2,380万 t 程度の見通し。**  
**(対 前回見通し▲80万t減)**

## 単独粗鋼生産量<半期>

単位：万t



\*2023年9月16日京浜地区上工程休止。  
 (前回見通し通り)

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

粗鋼生産量についてです。

当社単独の粗鋼生産量は、年間で約 2,380 万トン程度の見通しとしています。前回の見通しでは 2,460 万トンでしたので、80 万トンの減産となっています。下の図は、半期ごとの粗鋼生産量を表しています。今年度は、上期実績が 1,216 万トンであり、下期見通しは 1,160 万トンとなります。一方、右側の緑の棒グラフは前回見通しで、上下とも 1,230 万トンで横ばいという見通しでしたが、今回は特に下期に大きく減産すると修正しました。その要因としては、先に述べた海外の鋼材需要や市況の回復が、前回の想定よりも遅れていることが挙げられます。そのため、輸出を中心に下期に生産量を落とす計画としています。



# JFEスチール 2023年度 業績見通し

JFEスチール

JFE

	単位	2022年度					2023年度見通し					2023年度 前回 見通し
		4-6月	7-9月	上期	下期	年間	4-6月	7-9月	上期	下期	年間	
		売上収益	億円	9,326	9,863	19,189	19,622	38,811	9,172	9,486	18,658	
セグメント利益	億円	930	552	1,482	▲14	1,468	681	547	1,228	772	2,000	2,000
棚卸資産評価 差等除き*	億円	▲230	552	322	416	738	591	647	1,238	762	2,000	2,250
単独 粗鋼生産量	万 t	643	621	1,264	1,145	2,410	605	611	1,216	1,160 程度	2,380 程度	2,460 程度
連結 粗鋼生産量	万 t	677	659	1,337	1,211	2,548	638	647	1,285	/		
単独 鋼材出荷量	万 t	554	532	1,086	1,088	2,174	523	542	1,065			
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	48.5	45.0	46.7	42.2	44.5	44.2	44.2	44.2			
鋼材平均価格	千円/t	126.7	136.7	131.6	129.9	130.8	128.5	130.1	129.3			
為替レート	円/ドル	126.5	136.6	131.6	138.6	135.1	135.8	144.1	139.9	150 程度	145 程度	139 程度
期末為替レート	円/ドル	136.7	144.8	144.8	133.5	133.5	145.0	149.6	149.6	150 程度	150 程度	140 程度

\*セグメント利益から、棚卸資産評価差、キャリアオーバー、為替換算差、構造改革費用(一過性)を除いた損益 Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 18

こちらは、当社の鉄鋼事業の23年度の業績見通しについて整理したものです。セグメント利益は前回見通しと同じ2,000億円ですが、棚卸資産評価差等除きでは、前回の2,250億円から今回2,000億円に減少し、この部分では250億円の減益の見通しです。

また、粗鋼生産量については先程申し上げた通りです。

最後に、表の下から2段目に為替レートがありますが、下期の為替レートは150円を前提としています。したがって、年間では約145円となります。



## 2023年度 セグメント利益 対前回見通し ±0億円内訳

JFEスチール	2023年度 前回見通し	2023年度 今回見通し	増減 対前回
セグメント利益	2,000	2,000	0
棚卸資産評価差等除き	2,250	2,000	▲250

(億円)

1. コスト	+50	
2. 数量・構成	▲80	・粗鋼2,460万t程度→2,380万t程度
3. 販価・原料	▲250	・海外市況減速により悪化
4. 棚卸資産評価差等	+250	・棚卸資産評価差+140 (▲120→+20) ・キャリーオーバー影響+220 (▲190→+30) ・為替換算差+90 (+60→+150) ・構造改革費用(一過性)▲200
5. その他	+30	

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

19

以上の前提を踏まえて、鉄鋼事業のセグメント利益の増減の要因についてご説明します。

まず前回見通しとの比較です。セグメント利益は前回見通しと変わらず2,000億円ですが、項目ごとに増減があります。コストについては、先ほど説明した上期での50億円のプラスが残ります。数量・構成については、粗鋼生産量が80万トンの大きな減産となりますが、損益の影響としてはマイナス80億円と、従来の生産量の減に対する金額影響に比べると小さな数字になっています。数量減の一方で、海外、特に輸出の黒皮等中心に今回生産量を落としたため、構成差によるプラスがあり、差引80億円のマイナスとなっております。

また、3番目のスプレッドについては250億円のマイナスとなります。販売価格については、前回よりも特に国内中心にさらに改善を織り込んでいますが、原料炭が大きく上がり、また、海外の市況が悪いため、スプレッドはマイナスとなっております。

棚卸資産評価差等については、一過性の構造改革費用200億円をこの中に入れてあります。これは9月の京浜上工程休止に伴って、予備品や設備の廃却等、今後、計上が考えられるものを改めて整理し、これから先、使う見込みがないだろうというものを、今回、200億円計上しています。あくま

でも構造改革に伴う一過性のものであるということで、棚卸資産評価差等の中に入れて、いわゆる評価差等除きの損益からは外しています。

以上のように、増減を見ていただくと、棚卸資産評価差を除いたところで、前回から 250 億円のマイナスとなりました。この理由は、前回と比較して、結果的にスプレッドのマイナス 250 億円が残ったためです。



JFEスチール

## 2023年度 セグメント利益 対前年度 +532億円内訳

JFE

JFEスチール	2022年度 実績	2023年度 見通し	増減 対前年度
セグメント利益	1,468	2,000	532
棚卸資産評価差等除き	738	2,000	1,262

(億円)

<b>1. コスト</b>	<b>+680</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構造改革効果 + 200</li> <li>・ 操業改善 + 250</li> <li>・ 高炉改修影響解消 + 130、減産影響解消 + 100</li> </ul>
<b>2. 数量・構成</b>	<b>+20</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 粗鋼2,410万t→2,380万t程度</li> </ul>
<b>3. 販価・原料</b>	<b>+1,200</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 販売価格改善活動継続によりスプレッド改善</li> </ul>
<b>4. 棚卸資産評価差等</b>	<b>▲730</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 棚卸資産評価差 ▲770 (+790→+20)</li> <li>・ キャリーオーバー影響 + 260 (▲230→+30)</li> <li>・ 為替換算差 ▲20 (+170→+150)</li> <li>・ 構造改革費用 (一過性) ▲200</li> </ul>
<b>5. その他</b>	<b>▲638</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 為替フロー差 ▲230</li> <li>・ 減価償却費 ▲110</li> </ul>

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

20

次に、前年度との比較です。前年度のセグメント利益は 1,468 億円で、今年度は 2,000 億円となっております。各項目の数字の傾向としては従来通りで、ご覧の通りです。

なお、数量・構成については、前年度から粗鋼が 30 万トン減少しておりますが、損益はプラス 20 億円となっております。つまり、粗鋼の減少にもかかわらず、損益はプラスとなっており、符号が逆転しています。

これは、先ほどお話ししたように、数量の減少に対して構成のプラスが少し上回ったためです。具体的には、シームレスや電磁鋼板の構成比が高まっており、前年度と比較して構成のプラスが大きく寄与しているものとなっております。



2023年度上期⇒下期 セグメント利益 ▲456億円内訳

JFEスチール	2023年度 見通し			増減 2023上→下
	上期 実績	下期 見通し	年間	
セグメント利益	<b>1,228</b>	<b>772</b>	2,000	<b>▲456</b>
棚卸資産評価差等除き	1,238	762	2,000	<b>▲476</b>
<b>1. コスト</b>	<b>+280</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造改革効果+200</li> <li>・操業改善+80</li> </ul>		
<b>2. 数量・構成</b>	<b>▲30</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗鋼1,216万t→1,160万t程度</li> </ul>		
<b>3. 販価・原料</b>	<b>▲500</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外市況減速により悪化</li> </ul>		
<b>4. 棚卸資産評価差等</b>	<b>+20</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棚卸資産評価差±0 (+10→+10)</li> <li>・キャリーオーバー影響+370 (▲170→+200)</li> <li>・為替換算差▲150 (+150→±0)</li> <li>・構造改革費用(一過性)▲200</li> </ul>		
<b>5. その他</b>	<b>▲226</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・為替フロ-差▲110</li> </ul>		

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

次に、上下差です。上期のセグメント利益が1,228億円であるのに対し、下期は772億円となり、456億円減少しております。内訳については数字をご覧ください。

コスト削減は、構造改革効果を含め280億円のプラスがありますが、粗鋼の減産により、数量・構成はマイナスとなっております。また、最も大きな要因としては、スプレッドのマイナス500億円があります。この500億円のマイナスは、原料価格の上昇に加え、輸出市況が非常に悪いことを見込んだものです。

棚卸資産評価差やその他の項目については、資料をご参照ください。



## 23年度下期スプレッドの織り込みについて

JFE

- 23年度下期は、原料炭市況が急騰する中、海外鋼材市況の回復がみられず、**主に輸出向けでスプレッド大幅悪化を想定。**
- 24年度上期以降は、**原料炭コスト未反映分の転嫁や持続可能な価格水準の追求、高付加価値品比率引き上げによりスプレッドを改善。海外市況の回復により更なる上積みも可能。**

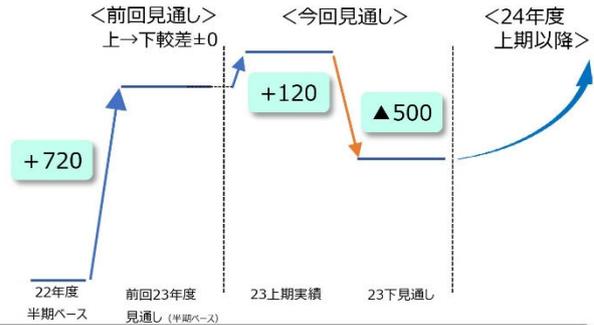
## 熱延黒皮スプレッド（中国スポットベース）



## &lt;海外市況の下期織り込みの考え方&gt;

- 前回公表：年明け頃からの鋼材需給・市況改善を想定
- 今回織込：足元の市況の低迷影響を反映。本格回復は来年度以降の前提

## スプレッドの織り込み（億円/期）



- 上期実績は、前回公表に対して販価改善等により+120億円
- 下期見通しは、海外市況低迷・原料炭高騰等の影響を織り込み、対上期実績▲500億円（対前回下期見通し▲380億円）

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

22

今、申し上げた、下期スプレッドの織り込みについてご説明します。

左下に、中国のスポットベースの熱延黒皮のスプレッドを示しています。スプレッドが非常に低く、現在の市況の低迷から、本格的な回復は来年度以降になると予想されます。つまり、下期は足下の水準が続くということを前提としています。

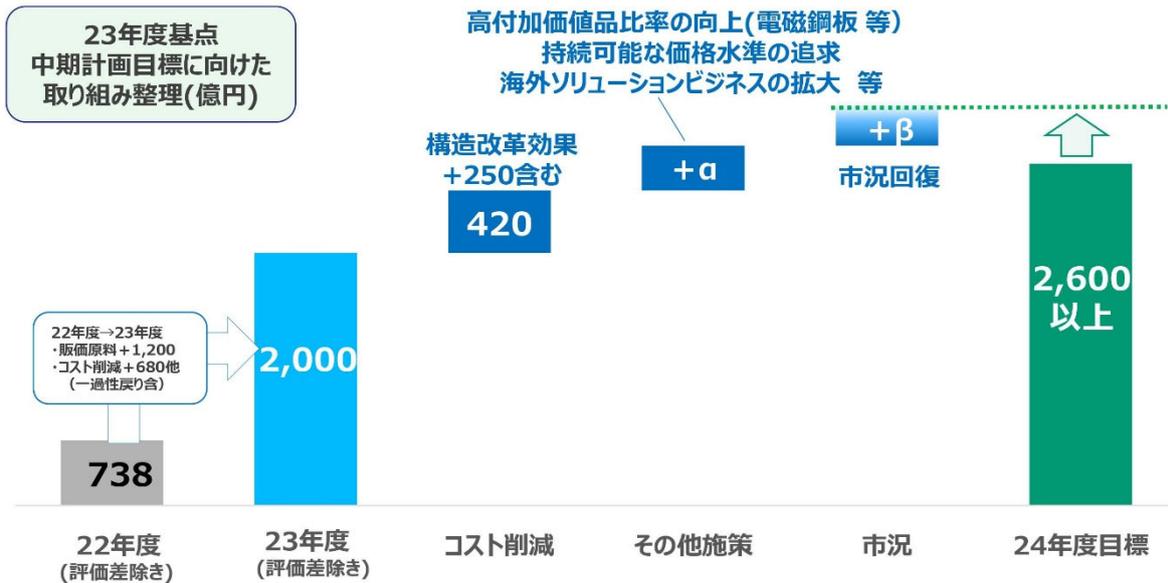
右側に、スプレッドの織り込みについて示しています。前回までは、前年に対して720億円改善して、上下で同じ水準という見方でしたが、今回上期は、販売価格の改善によってさらに120億円のスプレッド改善が達成されました。しかし、下期にかけては、輸出の市況が悪いため、上期実績に対して500億円マイナスとなり、前回見通しから見てもマイナスとなっています。

一方、24年度以降については、原料炭コストの未反映部分を着実に販価に転嫁することに加えて、価格水準の是正の継続、さらには高付加価値商品の比率引き上げを進めていきます。特に、来年の上期には電磁鋼板の設備も立ち上がってくる予定です。

これらの取り組みによって、スプレッドの改善が可能だと考えています。また、海外市況が足元水準から回復していけば、その分さらに上積みも可能だと見えています。

## 第7次中期計画達成に対する道筋

- 23年度の鉄鋼事業 棚卸資産評価差等除き損益は、**2,000億円の見通し。**
- 構造改革や販売価格改善、高付加価値品比率向上などの諸施策を着実に実施し、**24年度目標2,600億円以上の達成目指す。**



Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 23

以上をふまえて、第7次中期計画達成に対する道筋を示します。23年度の評価差除きの2,000億円をスタートにして、構造改革効果の残り250億円を含めたコスト削減により、来年度には420億円のプラスが確実に得られると考えています。さらに、高付加価値商品比率の向上や価格水準の追求、ソリューションビジネスなどの+αにより、2,600億円以上の利益を目指します。また、海外市況の回復により、さらに上を目指していきたいと考えています。



# 2023年度 業績見通し

JFE

## 足元の事業環境/損益概況

年間セグメント利益は**250億円**を見込む。(前回見通し通り)

<対前年度>

- 受注高：「Waste to Resource分野」、「カーボンニュートラル分野」で拡大。
- セグメント利益：受注済プロジェクトの進捗による売上増や資機材高騰影響の価格反映等により増益。

## 業績見通し

(億円)	22年度実績		23年度見通し		増減 (対前年同期)		23年度見通し (前回)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	2,860	5,649	<b>2,697</b>	<b>5,800</b>	▲163	151	2,800	5,800
売上収益	2,190	5,125	<b>2,484</b>	<b>5,500</b>	294	375	2,300	5,500
セグメント利益	▲39	134	<b>87</b>	<b>250</b>	126	116	50	250

## 対前回公表

<上期セグメント利益 +37> 売上収益増他

<年間セグメント利益 ±0> 前回見通しから変更なし

次に、エンジニアリング事業についてご説明いたします。

エンジニアリング事業においては、セグメント利益が250億円、受注高が5,800億円と、前回の公表と変わりません。上期については、前回の公表よりも少し改善し、利益が37億円増加しました。売上収益が上期に前倒しで増加したことにより、利益も上期に前倒しになったということです。



足元の事業環境/損益概況

年間セグメント利益は**480億円**を見込む。(前回見通し通り)

<対前年度>

- 自動車生産の回復はあるものの、中国経済の回復の遅れ、および北米を中心とした国内外の**スプレッドの縮小により、減益の見通し**。(前年度比▲171億円、中期計画比+80億円)。

業績見通し (億円)	22年度実績		23年度見通し		増減 (対前年同期)		23年度見通し (前回)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	7,502	15,141	<b>7,420</b>	<b>15,800</b>	▲82	659	7,800	16,200
セグメント利益	406	651	<b>268</b>	<b>480</b>	▲138	▲171	260	480

次に、JFE 商事についてご説明いたします。

JFE 商事においては、年間のセグメント利益が 480 億円で、前回の見通し通りです。上期についても、前回見通し 260 億円に対し 268 億円と、大きな変動はありませんでした。



## 京浜地区上工程休止について

JFE

- 9月16日に京浜地区上工程および熱延設備を休止。
- 24年度までに**固定費削減効果 + 450億円を実現**し、損益分岐点を大幅に低下見込み。
- 他地区のスラブ、コイルを活用し、**建築構造用厚鋼板(HBL®)や高耐食性めっき鋼板(エコガルNeo®)等の高付加価値商品に注力**する新しい都市型製鉄所を目指す。

設備	21年度	22年度	23年度	24年度～
千葉地区 缶用鋼板 設備休止 福山へ集約		22年度8月休止 (第2タンDEM・ 第4CAL・TFL) ★		
高炉改修	倉敷4BF (~21.12) ★	千葉6BF (22.9~23.1) ★		
京浜地区 上工程・熱延 設備休止			23年9月16日 休止 ★	
京浜地区 土地利用		南渡田北地区北側 事業パートナー選定 (23.3) ★	23年9月7日 扇島整備方針 公表 ★	扇町 土地売却 (24.12) ★

## 構造改革後の生産体制



新規DX技術により他地区からの受け入れ素材等の物流自動化を推進。

沿岸クレーン遠隔・自動化

自動運転トレーラ



研究開発中



実証実験中

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

29

それでは、トピックスに移ります。最初に、京浜地区の上工程の休止についてです。

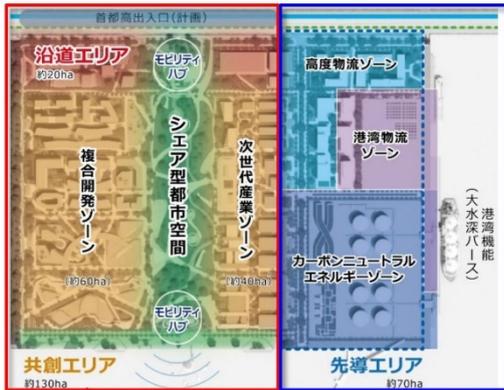
9月16日に、京浜地区の上工程および熱延設備を休止いたしました。以前からお伝えしている通り、24年度までに固定費削減効果450億円を実現し、損益分岐点を大幅に低下させることを目指しています。

また、右側にある生産体制の図についてですが、上工程が止まったため、京浜地区では福山、倉敷、千葉の各地区からスラブやコイルを運んできて、下工程で圧延することになります。このような状況の中で、建築構造用の厚鋼板やエコガルなどの高付加価値商品に注力し、新しい都市型製鉄所を目指します。

構造改革後は他地区から多くのスラブやコイルを持ってこることもあり、DX技術を活用して、他地区からの受け入れ素材や所内の物流などを自動化し、コストを抑えながら新しい形を作っていく計画です。

- 各エリアの特性を活かし、「売却」「賃貸」「事業利用」を適切に組み合わせた総合的な土地マネジメントに取り組む。公的資金の積極的な導入を国・市と協議し、切れ目のない段階的な整備を進める。
- 土地利用転換対象エリア約400haのうち先導エリアを含めた概ね1/4について、24年度に至近の収支計画の公表を検討中。

【扇島(約222ha)のゾーニング】



**先導エリア**  
大水深パースを活かして水素等供給拠点の形成を図り、地区全体のカーボンニュートラル化と土地利用転換を先導。

**沿道・共創エリア**  
中心軸として緑豊かな共用空間である「シェア型都市空間」を配置し、両サイドに次世代の産業や施設等の集積を図る「次世代産業・複合開発ゾーン」を配置。

【主な動き】

2023年度	・土地利用構想公表 (9/7) ・上工程休止 (9/16)
2024年度	・扇町約21ha引渡し (約450億円譲渡益見込)
2027年度	・南渡田北地区北側まちびらき
2028年度	・先導エリア一部利用開始 ・先導エリアから切れ目なく沿道エリア・共創エリアの整備に順次着手
2050年度	・全体概成

次に、9月7日に OHGISHIMA2050 という名称で、京浜地区の土地利用構想を発表しました。内容についてはその際に発表したものと同じですが、土地利用転換エリア合計約 400 ヘクタールのうち、先導エリアを含めた約 4 分の 1 が具体化してくるため、来年度中には至近の収支計画を公表することを現在検討中です。

JGreeX™が船舶に加え、**建築物、変圧器にも初採用。**

■ **造船用厚鋼板** 2023/6/20リリース

- 国内海運8社とCO<sub>2</sub>削減価値をサプライチェーン全体で広く負担する**社会分配モデルを世界に先駆けて構築。**
- 販売数量：約14,000t



■ **建築用厚鋼板** 2023/10/2リリース

- 「(仮称)水道橋PREX」の**新築工事に初採用。**
- 建物新築時の資材製造におけるCO<sub>2</sub>削減に貢献。
- 販売数量：約200t



**PREX**

(仮称)水道橋PREX案件

事業者	住友商事株式会社
設計者	株式会社熊谷組
・施工者	(予定)
建物規模	鉄骨造 地上10階建て

■ **変圧器用電磁鋼板** 2023/10/26リリース

- 欧州で製造される**変圧器用に方向性電磁鋼板が初採用。**高効率変圧器の製造を可能とする高級方向性電磁鋼板の供給によりCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献。
- 販売数量：約300t

また、グリーン鋼材、JGreeX の採用状況についてです。前回、左上の造船用の厚鋼板について紹介しましたが、その後も右側の建築用の厚鋼板に初めて採用され、量としては 200 トン程度です。さらに、下にある変圧器用電磁鋼板についても、ヨーロッパで初めて採用され、JGreeX の実績が着実に出てきております。



# 公募増資、CB発行による資金調達について

JFE

➤ 2023年9月、GX戦略の推進を機動的かつ確実に実行し、持続的な利益成長を続けるため、**公募増資・CB発行(新株式発行、自己株式処分、転換社債発行)により総額2,045億円を調達**。2030年に向けた鉄鋼製造プロセスの脱炭素化のために必要な**1兆円規模の投資を支える財務基盤の強化を図る**。

種類	調達額	資金使途	金額	狙い
<b>【新株式発行】</b> 2,500万株 <b>【自己株式処分】</b> 3,000万株	1,145億円	(倉敷地区) 無方向性電磁鋼板の製造設備増強 ※ I期:2024年度上期、II期:2026年度	約950億円	足もとの電磁鋼板の需要増を捕捉し、収益力を強化
		(インド) 方向性電磁鋼板の製造販売合併会社設立の出資金	約150億円	
<b>【転換社債発行】</b> 2028年満期 転換価額3,041円* UP率 39.98%	900億円	(千葉地区) ステンレス用電気炉の導入	約150億円	今後のGX戦略の速やかな遂行を支える強固な財務基盤を確立
		鉄鋼製造プロセスの脱炭素化に伴う設備投資、事業投資、研究開発費等	約750億円	

\*9月11日条件決定時点。2023年度中間配当反映調整後は2,973.7円。

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

32

当社は、9月に公募増資とCB発行によって資金調達を行いました。これは、GX戦略を機動的かつ確実に実行し、持続的な利益成長につなげるためのものです。

公募増資で調達した資金については、倉敷地区での無方向性電磁鋼板の投資資金や、インドでの方向性電磁鋼板のジョイントベンチャー設立の出資金相当に充てることで、着実に利益を出し、株主価値の向上を図ります。

また、転換社債900億円を調達しました。これは、2030年に向けた鉄鋼製造プロセスの脱炭素化に1兆円規模の資金が必要と申し上げていますが、こういった投資を支えるためのものです。これによって、財務基盤の強化や柔軟性の確保に資すると考えています。

## 2023年度 JFEグループレポート（統合報告書）・サステナビリティ報告書を発行

JFEグループレポート 2023.9.26 発行  
サステナビリティ報告書 2023.9.28 発行



- 1. 価値創造戦略 ～環境的・社会的持続性と経済的持続性の両立を目指して～**
  - CEOメッセージ、CFOメッセージ
  - 経営上の重要課題とKPI、第7次中期経営計画の進捗
  - 事業戦略特集（電磁戦略・京浜地区土地活用）



<https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html>

- 2. 価値創造の取り組み**
  - JFEグループのビジネスモデル、事業別戦略
  - 気候変動問題の解決に向けて

- 3. 成長を支える経営基盤**
  - 社外役員座談会、コーポレートガバナンス など



- 1. JFEグループの目指すもの**
  - 鉄の価値
  - 第7次中期経営計画の進捗
  - 経営上の重要課題（マテリアリティ）、KPIの達成状況



[www.jfe-holdings.co.jp/sustainability/index.html](http://www.jfe-holdings.co.jp/sustainability/index.html)

- 2. サステナビリティマネジメント**
- 3. ESG課題への取り組み・データ集**
  - 環境：気候変動問題、環境配慮型プロセス・商品、生物多様性 など
  - 社会：労働安全衛生、ダイバーシティ&インクルージョン、人権尊重 など
  - ガバナンス：コーポレートガバナンス、リスクマネジメント など

### 気候変動問題については、11/8にCN戦略説明会を開催

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

最後に、例年通り、統合報告書・サステナビリティ報告書を発行しました。また、11月8日にはJFE スチール主催のカーボンニュートラル戦略説明会を開催する予定としています。

以上です。

## 質疑応答

---

**司会：** それでは、質疑応答に移りたいと思います。

最初のご質問をお願いいたします。

**質問者：** 上期実績において、鋼材価格の上昇、スプレッドが前回見通しより改善した要因を、国内紐付き、国内市況分野、海外等の分野別に教えてください。スプレッドの中に円安影響も含まれるのかについても教えてもらえますか。

また、下期見通しについて、貴社は紐付きの顧客とはあと決めて販売価格を決定するため、大方の顧客とは、フォーミュラに従って、足元の高くなった原料炭を、ある程度販売価格に転嫁にする前提と考えて良いでしょうか。一方、市況分野では、高炉メーカーからの値上げという話が聞こえてきておりませんので、主原料コストが反映出来ていない分野と考えて良いか、教えてください。輸出については、前回見通しでは1Qのスプレッド水準に4Qでは戻るという想定と伺っていますが、今回見通しでは、おそらく足元横ばいで想定していると思います。原料価格の織り込みを含めて、下期の計画に関してご解説ください。

**JFE：** 上期実績では、販売価格は国内・輸出ともにプラスになりました。国内のプラスの方が大きく、紐付き分野が中心です。輸出は見通しの市況前提より少し上振れたためです。なお、為替の影響はこの価格差からは除いて分析しているので、円安影響は含まれていません。

下期の織り込みの前提は、ご指摘のとおり当社の価格決定のフォーミュラによって、下期中に上昇した原料価格を販売価格に反映することも一部織り込んでいますが、個別のお客様との関係や、様々な条件がありますので、原料価格の上昇分の全てをこの下期中で転嫁することは出来ないと考えており、2024年度上期以降に価格転嫁がある程度ずれる前提となります。

市況分野については、現在の市況等、状況がある程度見て数字の織り込みを行っています。

輸出については、足元のスプレッド水準が下期の半年間は継続することを前提にしており、今回の見通しでは回復を見ていません。

原料価格は、説明の中でも申し上げた通り、鉄鉱石、原料炭ともに、足元の価格水準が下期の半年間は継続するという前提で織り込んでいます。

**質問者：** 原料炭価格の安定化に関して、積極的にスポットマーケットに関与していくという記事が業界誌に出ていました。Platts社やArgus社等、ごく限られた人たちのヒアリングの価格で、それ

がインデックス化して決まることが原料炭価格の問題かと思います。さらに、そのインデックス価格のベースは非常に流通が少ないスポット市場での、一部のインドメーカーの言い値に近い形で成約が行われてしまうという問題、これらに対する問題提起かと思いますが、この辺りについてご解説いただけないでしょうか。よろしく申し上げます。

**JFE**：原料炭の問題につきましても、基本的にはご認識のとおりです。もともと、非常に成約件数が少なく、成約内容もある程度ヒアリングベースのようなもので決まっていくため、不透明な部分があると認識しており、特に最近是中国ミルの購買が減少し、成約件数がより減少しています。そのため、インドミルの成約によって価格が決まっている状況にあります。この状況にある程度正常化させていくためには、取引を増やすことが一つの対策として考えられるため、先日の鉄鋼連盟の会見時に、JFEスチール社長の北野が申し上げます。

**質問者**：流動性が増すことで価格の厚みが出て、今よりは価格の振幅が小さくなりますか。また、御社の損益への影響についてはあまり関係ないという印象を持って良いでしょうか。

**JFE**：スポット取引はそれほど多くないため、当社の損益に与える影響はあまり考えていません。現在は取引が非常に少ない状況で、場合によっては、1週間に1件や2件程度の取引しか行われていないという話も聞かれます。そのような状況の中で、一度試してみるということになります。

**質問者**：分かりました。ちなみに原料炭市況は足元340～50ドルですが、その水準で見たということでもいいでしょうか。

**JFE**：300ドルを超える水準で見えております。

**司会**：続きまして、お願いいたします。

**質問者**：22年度対23年度の損益分析について、資料20ページの5番その他に関する質問です。期初の見通しから同じ状況ですが、為替フロー差と減価償却費を除いても、約300億円の悪化要因があります。具体的な内容や、来年以降も同様の状況が続く可能性があるか教えてください。

**JFE**：対前年度との損益分析のその他に関しては、ご指摘の通り、期初の見通しからこのような状況が続いています。細かいものが沢山ありますが、例えば本社経費等が挙げられます。前年度と比較すると、今年度はますます活動水準が上がっており、出張の頻度が増える等、関連する経費は増加しています。また、海外事務所の経費も影響しており、為替が円安になっているため、円ベースに換算するとさらに増加します。ITも常に新しいものに更新していく必要があります。これらが重なって約100億円の影響があると考えています。これ以外にも物価影響も入っています。また、京

浜地区の構造改革に伴い、数年にわたって養生等の費用がかかることが予想されます。これらは一過性の費用ではなく、数年にわたって出費が継続するため、その他の中に含めています。

**質問者：**増資に関する質問です。資料 32 ページにも記載されているエクイティによる調達 1,145 億円のうち大半は電磁鋼板の投資に充てられるとのことですが、その電磁鋼板への投資によって、どの程度能力が増えるのか、また電磁鋼板の収益性も明確になっていない中では、投資リターンの計算が難しいと一般的には思います。この辺りをどのようにお考えでしょうか。

**JFE：**電磁鋼板の具体的な生産量については言えませんが、設備投資を公表した際にも説明した通り、24 年度上期に倉敷地区において、現行の 2 倍に増やす予定であり、26 年に向けては現行の 3 倍に増やしていく予定です。収益性についても具体的な水準まではお伝えできませんが、中期経営計画の目標であるトン当たり 1 万円を、はるかに超える水準です。

**司会：**続きまして、お願いいたします。

**質問者：**今回の業績見直しを見直す中で、グループ会社の貢献について、特に海外でどのような変化があったのか確認させてください。中国は低調ながらインドは好調とか、地域によってプラスマイナスもあるかと思いますが、海外拠点の今年度、それから来年度に向けた見方を確認させてください。

**JFE：**グループ会社については、前回から今回見通しの動きでみますと、個社別でみるとプラスマイナスは多少ありますが、総じていえば、国内海外ともに、あまり大きな変動はありません。海外についても、中国やインド等、地域別にみてもご説明申し上げるような大きな動きはないという状況です。

**質問者：**構造改革費用と効果に関して確認させてください。構造改革費用のうち、一過性で 200 億円のマイナスがあり、先ほどの質疑でご説明があった養生費用などが今後は固定費に近い形で每期、ある程度発生するというお話は、23 ページの 24 年度中期計画達成への道筋の中で、どのように考えればいいのでしょうか。

今後の構造改革効果の刈り取りに当たり、それらの構造改革費用と相殺されて、効果が残らないという事を心配しています。構造改革の成果を発揮し、各施策による  $+\alpha$ 、市況回復による  $+\beta$  を取り込める体制ができているのか再確認させてください。

**JFE：**23 ページの 24 年度中期経営計画への道筋の基点である 23 年度実力損益 2,000 億円は、浜地区構造改革費用(一過性)の 200 億円を除いて算出しています。一過性の費用ですので、来年度以降へは影響はないと考えています。

先ほど説明した 23 年度の実力損益に含まれる養生費用は、その一過性費用 200 億円とは異なるものです。24 年度も養生費用の発生を見込んでいますが、今年度から来年度に向けては新たなマイナス要因にはなりません。養生費用はいずれ発生しなくなる費用なので、その先を考えるとプラス要因にもなり得ると考えています。

これらの構造改革費用に対して、固定費削減効果 450 億円が今年度 200 億円、来年度 250 億円と発現していきますので、今後は間違いなくプラス方向に行くということをご理解いただければと思います。

**司会：**続きまして、お願いいたします。

**質問者：**今回、単独粗鋼生産量が下方修正されたということで、輸出黒皮がメインということでしたが、国内と輸出向けの需要について、下期だけでなく来年度以降の見通しを教えてくださいませんか。

**JFE：**単独の粗鋼生産量の下方修正については、基本的には海外中心です。国内全体を見ると、自動車向けの需要は増加していますが、一般建築・土木向けなどが緩んでいることから、国内全体としては大きな変化はない状況とみています。一方で、特に海外の熱延黒皮の需要については、現在のスプレッド水準では、量を追わないという意図も含めて、下方修正を行っています。

**質問者：**資料 22 ページ目の左側にある熱延黒皮のメタルスプレッドのグラフについて、前回から今回にかけて少し下方修正されたとのことですが、実際的水準は、どの程度で想定されているのでしょうか。

**JFE：**メタルスプレッドのグラフについては、これは中国の熱延黒皮から原料のスポットを引いた水準であり、現在は 50 ドルを割っている水準です。われわれのスプレッドはこれより高い水準ではありますが、現在は非常に厳しい状況にあり、下期は 100 ドルを割るようなスプレッドになると見込んでおります。

**質問者：**輸出のスプレッドについては、現在の状況からの回復を少し見込んでいるということでしょうか。それとも、現在の状況が続くことを想定しているのでしょうか。

**JFE：**今年度いっぱいは今この状況が続くと想定しています。

**司会：**続きまして、お願いいたします。

**質問者：**先ほどの資料 22 ページの質問に関連して、右側のスプレッドの織り込みと、国内のマージンに関する質問です。競合他社では、適正なマージンについて一定の水準を目指しているという話があります。今後、注文構成の高度化で限界利益の向上を図る方針とのこと。一方、貴社の

適正マージンについては、来期以降にまだまだ上昇する余地があると予想されているのか、それとも一定の水準を取りつつあるのかを教えてくださいませんか。

**JFE**：当社は販売価格の改善に積極的に取り組んできており、お客様から一定のご理解を得た上で進めています。ただし、先ほどの説明にもあったように、足元の原料炭の値上がり分などは、今年度内では完全に吸収できない部分もあります。そのため、来年度にも引き続き取り組んでいく必要があります。

また、諸物価の改善についても、来年は電力代が上がる見込みがあり、また人件費の上昇影響など、様々なコストアップ要因が考えられます。そのため、継続してお客様としっかり交渉し、今後改善に取り組んでいく予定です。

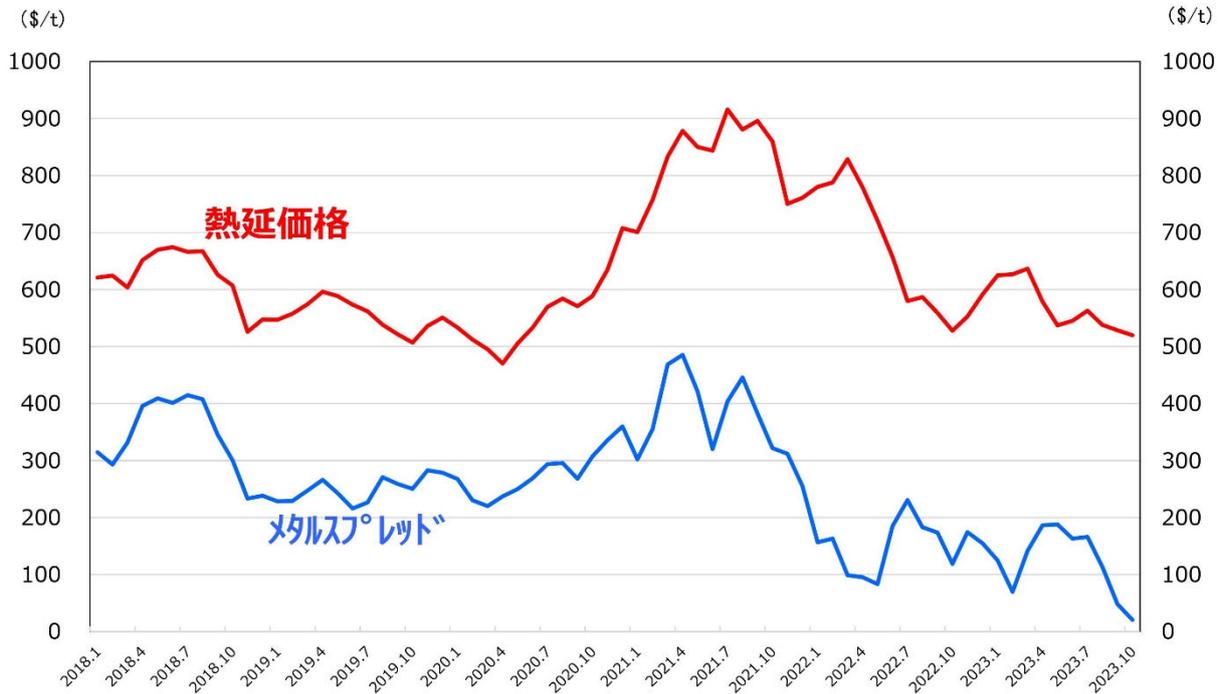
**質問者**：マージンの考え方について、原料炭などの主原料コストは、タイミングのずれはあるものの転嫁できると思います。また、諸物価に関しては、どこを起点に考えるかによっても変わってくると思いますが、これまで取り切れていなかったコストを転嫁する取り組みを行ってきた結果、上期の決算においてもマージンの改善が表れていたと考えています。これを今後更に改善するにはどのような方策があるのかについてご教示ください。

**JFE**：当社は常に持続可能な販売価格水準を目指し改善に取り組んでおり、その取り組みに加えて、9月に京浜地区の上工程休止をする中で、収益性の高い製品や高付加価値製品への品質転換を進め、さらなる収益性の向上を目指していきたくと考えております。

**質問者**：資料 29 ページに関する質問です。京浜地区の上工程休止について、福山や倉敷などからスラブやコイルを京浜に持ってくることで、高付加価値品に注力するとあります。物流費が掛かることからこの方向性が収益を上げる方向に向かっているのか、確認をさせていただきたいと思えます。

**JFE**：京浜地区でのコストアップはある程度予想されますが、全体的にはコストが削減されることを目指して取り組んでいます。特に、京浜地区は東日本のお客様に対する厚板の拠点としての役割もあるため、その特性等を生かして収益を確保していきたくと考えています。

**司会**：そろそろ終了予定時刻が近づいてまいりましたので、次の方を最後のご質問者とさせていただきます。お願いいたします。



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

※熱延価格：中国5都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

Copyright © 2023 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

質問者：中国とインドについてお伺いさせていただきます。

まず、中国について、資料 48 ページのスプレッドを拝見すると現在、トン当たりのスプレッドが 50 ドル程度まで下がっているようです。これを見ると、2015 年のチャイナショックの時期を思い出します。当時は、鉄鋼業界で何兆円もの赤字が出たとの話を覚えています。

しかし、現在はそういった話はあまり聞こえてきておらず、これは、単に私たちの耳に入ってこないだけなのか、それとも中国の鉄鋼業界が色々な面で前進し、悪い状況の中でも安定している状況にあるのか、中国の鉄鋼業界が現在どのような状況にあるのか、ご認識をお聞かせいただけますでしょうか。

次に、インドについて、現在のインドの鋼材需給に関するコメントをいただけると幸いです。

JFE：まず、中国については、現在まだ見えていない部分もありますが、最近、スプレッドが急激に悪化しており、中国のミルの損益状況も悪化しているというニュースも入ってきています。

ただ、環境的な面やミル自体のポジショニングについては、過去から変わってきていると思います。

昨年や一昨年には政府主導の粗鋼減産が進められており、以前と比べてミル自体がやみくもに増産に走るわけではなくなっているように感じます。中国の経済情勢が悪化している中で、彼らもそれに応じた行動をとってくるはずですので、その動静に注目しています。

次に、インドについては、経済は比較的好調で、成長率は6%台、インフレも5%台に収まっています。インド国内は堅調であり、中国ミルが東南アジアに進出している中で、インドミルからの輸出が出てこないのが、東南アジア市況がまだ保たれている状況にあると聞いています。

**司会：**以上で質疑応答を終了させていただきます。

それでは、これもちまして本日のインベスターズ・ミーティングを終了させていただきます。本日は、ご参加いただきまして誠にありがとうございました。

[了]

本資料は当社の 2023 年度上期の業績の状況について一般に公表するために作成された資料であり、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、日本国、米国又はそれ以外の一切の法域における有価証券への投資に関する勧誘を構成するものではありません。提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。